

令和2年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書（3）

第3回「森林被害にどう立ち向かうか」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第3回「森林被害にどう立ち向かうか」 講義：「木を枯らす虫の話」 講師：千葉県農林総合センター森林研究所 上席研究員 福原 一成 実習：「森林研究所構内の森林を学ぶ」 講師：千葉県農林総合センター森林研究所 主任上席研究員 福島 成樹
日時	令和2年9月27日（日） 9：30～15：30
会場	千葉県農林総合センター森林研究所会議室・構内
出席者	受講生15名（9市）・講師2名、スタッフ2名
内容	10：00～12：00 講義：「木を枯らす虫の話」 講師：千葉県農林総合センター森林研究所 上席研究員 福原 一成 12：00～13：00 昼食 13：00～15：30 実習：「森林研究所構内の森林を学ぶ」 講師：千葉県農林総合センター森林研究所 首席上席研究員 福島 成樹
	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回里山カレッジは千葉県農林総合センター森林研究所会議室および構内樹林地で行われた。 ・福原一成講師は、千葉県内では新旧の森林の病虫害の発生が危惧されているとして、5つの病虫害を紹介した。 ・5つの病虫害の木を枯らす仕組みを見ると2通りある。一つは虫自体が直接木を食害し、通水障害や幹折れを起こし枯死させる。ウメ、サクラ、モモにつくクビアカツヤカミキリ、イヌマキの被害が顕著なケブカトラカミキリ、スギにつくスギカミキリだ。2つ目は虫が外部から枯らす病原体を持ち込み、木がそれに反応し枯死させる。松を枯らすマツノマダラカミキリ、ナラ枯れを引き起こすカシノナガキクイムシだ。 【クビアカツヤカミキリ】 ・クビアカツヤカミキリは千葉県内では発見されていないが、県内では注意を喚起している。 ・国内では2012年に愛知県で初めて発見され、その後埼玉県、群馬県、東京都、大阪府、徳島県、和歌山県と続き、2019年には三重県、奈良県で新たに発見され、特定外来生物の指定種だ。 ・防除の方法は物理的防除、薬剤散布、伐採と3通りある。自治体あげでの取り組みとして、徳島県ではクラウドファンディングで研究資金を募り、集まった資金で、成虫1個を500円で買い取っている。害虫駆除に懸賞をかけて駆除している例はクビアカツヤカミキリくらいではないか。 【マツノマダラカミキリ】 ・2012年に千葉県館山市で大規模なマツ枯れが発見された。松くい虫の正体はマツノマダラカミキリの体内にいるマツノザイセンチュウが松に侵入し、材を食い荒らし、急激なショック症状で松枯れがおきることが原因。

・松くい虫の防除法は薬剤散布、薬剤樹幹注入、枯れたマツの除去がある。加えて森林研究所で新たに開発した「まつまだらなび」。このソフトによって県内各地域で初発生日を予測し、薬剤を散布し松くい虫防除に役立てることができる。

【カシノナガキクイムシ】

・千葉県内では 2017 年鴨川市でマテバシイのナラ枯れが発見された。1990 年頃日本海側に始まり 2000 年頃大阪、中部地方で発生、太平洋側を北上する形で広がった。

・ナラ枯れの防除として、殺菌剤を樹幹に注入し、カシノナガキクイムシが穿孔してもナラ菌が増殖できないようにし、カシノナガキクイムシの幼虫の餌を断つことでナラ枯れを防止するもの。

・ほかにクリアファイルで作った捕獲トラップ。樹幹にラップを巻いてカシノナガキクイムシの侵入をブロックする方法がある。

【ケブカトラカミキリ】

・千葉県ではイヌマキの被害が顕著で 2008 年県内北東部で初めて確認された。県外からの移入ではないかといわれている。幼虫が樹皮下の幹を食い荒らし枯れ死させる。防除法は成虫になって脱出する日を「けぶかとらなび」で推定し、薬剤散布が有効とされる。

【スギカミキリ】

・スギ・ヒノキの静かな殺し屋ともいわれ、本州から台湾に分布する穿孔性昆虫である。

・秋に樹木内で成虫となり越冬し、4 月頃に外に出てきて樹皮に産卵し、ふ化した幼虫は樹皮化で幹を食害しながら移動する。樹木は通水阻害を起こし、枯れ死する。

・防除法として被害木の伐倒、林外搬出による駆除、樹皮はぎ、薬剤散布、カミキリに強い品種の開発が考えられている。

【質 疑】

・被害木のある森の整備をしている受講生多く、質問はカシノナガキクイムシに関するものに集中した。防除法、枯死木を伐採してできたギャップからの萌芽の可能性、樹内部の食痕などだった。

【森林研究所構内の森林を学ぶ】

・午後は福島成樹講師が森林研究所構内の樹林を解説し、観察した。

・サンプスギの見本林では全国各地の精英樹の生育状況、被害木伐採後の幼樹育成とスギチップを敷くことによる雑草伸長の調査、溝ぐされ病にかからない品種の開発などを見学。

・カシノナガキクイムシに取り付かれフラスが出ているコナラ、台風被害の状況から根の浅いサワラ、ヒノキの芯ぐされ、材が柔らかいため台風の風でトップ部分が消失したセンペルセコイヤ、カリダシの現場、少花粉スギの開発など観察した。

・講師、スタッフ、受講生のマスク着用、会議室内の密接空間を避け、テーブル、椅子のアルコール消毒、入り口での体温測定と手指アルコール消毒、トイレ使用後の手指アルコール消毒に努めた。

添付資料（写真）



ちば里山センター金親理事長のあいさつ



福原講師



受講生の皆さん



台風被害にあったサンプスギ



スギ幼樹育成実験



スギ見本林



シロスジカミキリによる被害木



フラスの見えるコナラ



マルチキャピティコンテナのスギ苗



花粉の少ないスギ種の採取樹



コウヨウザン



スギ幼樹を説明する福島講師